様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月 ２３ 日現在

機関番号：３４３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2021
課題番号：１８Ｋ００９１８

研究課題名（和文）5～13世紀ユーラシア東方における都城と仏塔の比較史的研究と3Dアーカイブ作成

研究課題名（英文）A study of comparative history and 3D archive creating on the walled cities and Buddist stupas in eastern Eurasia during the 5-13th century.

研究代表者
武田　和哉（TAKEDA, Kazuya）

大谷大学・文学部・教授

研究者番号：９０６４３０８１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究では、5-13世紀にユーラシア東方にて造営された都城と仏塔に関する比較史的研究を行い、併せて3Dアーカイブ作成手法の研究を行った。研究期間の半ば頃には新型コロナウイルス蔓延の事態が発生して、当初に予定していた国内外での実地調査は困難となったため、都城と仏塔の関係に関する基礎的研究を行うこととし、日本国内では8世紀の平城京と長岡京の歴史的展開を、また東アジア地域では10世紀の契丹（遼）時代の都城制度整備と仏教受容を、主たる研究フィールドとして選択した。
　最終的にはそれらの分野の研究成果として、基礎的史資料の集成・訳注、3次元アーカイブ作成の手法に関するレポートなどをとりまとめるに至った。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　8-13世紀は、日本を含むユーラシア東方においては各地域間の外交交渉が本格化した時代であり、さらには仏教を媒体とした文化的交流も盛んになった。ほとんどの地域で仏教は受容され、為政者により仏塔建設が盛んに行われた。為政者は仏教保護者たる立場を明確にすることで、政権維持や領域統治の安定化を図ることを目指した。よって、仏塔は原初的には宗教的モニュメントであったが、この時期には為政者が造営する政治的モニュメントに変質し、その規模や装飾も権威的・荘厳的な色彩を強くしていった。
　本研究は、ユーラシア東方地域に特徴的な仏教と世俗権力との結合とその特質について、主たるモニュメントの仏塔に主眼を置いて行った。

研究成果の概要（英文）：　In this research, we conducted comparative historical research on the walled cities and Buddist stupas built in the eastern Eurasia in the 5-13th centuries, and also studied the method of creating a 3D archive. Since the situation of the spread of the new coronavirus occurred around the middle of the research period, and it became difficult to conduct the field survey in Japan and overseas as originally planned, we decided to conduct basic research on the relationship between the walled cities and Buddist stupas, and selected the historical development of Heijo-kyo and Nagaoka-kyo in Japan in the 8th century, and the development of the city castle system and the acceptance of Buddhism in the 10th century in the Kitan (Liao) period in East Asia.
　Eventually, as research results in these fields, we compiled a compilation and translation of basic historical materials and a report on the method of creating a three-dimensional archive.

研究分野：人文情報学　歴史学　考古学

キーワード：仏塔　ユーラシア東方　都城　仏教　デジタルアーカイブ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

日本を含むユーラシア東方世界では、隋・唐が出現する頃をひとつの画期として、いくつかの変化がみられる。ひとつは、隋・唐という東アジアにおいて中心的位置を占めた王朝が成立し、その周縁の各地域との外交交渉や文化的交流が盛んになったことである。さらには、インドに発祥した仏教が伝来して、ほとんどの地域において受容がなされたという点である。

そもそも、仏教においては、仏陀の遺骨を納める施設としてのストゥーパというモニュメントが存在しており、その造営はインドにおいては時の為政者や地域の有力者が関与する形で造営されてきたものであった。東アジアや日本に伝来して以降も、そうした在り方は基本的には変わらず、ごく例外的弾圧の時期を除けば、東アジア各王朝や日本においても、皇帝や天皇が受戒を受けるなどして、仏教の保護者としての立場を明確にするとともに、その宗教的モニュメントである仏塔を、国家的な事業として首都などの重要都市に造営することが数多く行われた。こうした状況は地域にもよるが、東アジアでは 13 世紀初頭頃まで、また日本では 12 世紀頃まで継続されていく。

また、各王朝の首都だけでなく、地域統治の拠点である都城でも、同様に寺院もしくは仏塔を造営する展開もあり、こちらは地域社会への浸透と地域統治のモニュメントとしてみると、極めて重要である。特に、日本ではこの後にはモニュメントとしての木造塔から身近な石材を使用した石塔への転換の流れもみられ、地域ごとに身近なモニュメントとして造作されていく流れができる契機としても重要である。

２．研究の目的

こうしたユーラシア東方地域に特徴的に見える歴史的展開について、仏塔を宗教的・政治的モニュメントとして捉え、その造営の契機や実態、歴史的変遷について歴史学・考古学・仏教学等の各分野の立場から多角的視点での比較研究を行うことを目的とした。また、3D アーカイブ作成についても取り組み、その形成手法についての研究も目的とした。

３．研究の方法

当初は、国内外の各地域の仏塔について、データベースを作成して、それをもとにして調査を行う予定としていたが、折からの新型コロナウイルス蔓延という事態が発生したため、国内外での調査実施が困難となった。このため、まずは基礎的な史資料研究を重点的に行う方向に転換することとし、また主たるフィールドを絞り込み、日本国内では 8 世紀の平城京と長岡京の歴史的展開の問題について、また東アジア地域では 10 世紀の契丹（遼）時代の都城制度整備と仏教受容に問題について、それぞれ選択して研究を実施した。

最終的にはそれらの分野の研究成果として、基礎的史資料の集成・訳注、3 次元アーカイブ作成の手法に関するレポートなどをとりまとめるに至った。

４．研究成果

本研究においては、研究対象とした 8-13 世紀において、日本を含むユーラシア東方においては各地域間の外交交渉が本格化し、さらには仏教を媒体とした文化的交流も盛んになったことで、ほとんどの地域で「トレンドな思想」かつ「民族意識を超越した思想」としての仏教が広く受容されていったことは明らかであり、また各地の為政者によりモニュメントとしての仏塔の建設が盛んに行われた様相を把握した。

また、いずれの地域・時代の各為政者とも、概ね仏教保護者たる立場を明確にすることで、政権維持や領域統治の安定化を図ることを目指したという点で、ほぼ軌を一にしていると言える。結果的に、仏塔は原初的には宗教的モニュメントであったが、この時期には為政者が造営する政治的モニュメントに変質し、その規模や装飾も権威的・荘厳的な色彩を強くしていった。こうした背景には、仏教と世俗権力との結合があり、それこそが当該地域・時代の歴史的展開の大きな特質として位置づけられる点を認識するに至った。

なお、本研究における成果物としては以下のものがある。

⑴　森部豊・毛利英介・武田和哉・小國結菜編 森部豊・毛利英介・武田和哉・小國結菜・齊藤茂雄・藤原崇人・赤木崇敏 執筆　『『遼史』訳注稿 1 ―「太祖本紀」―』〔『遼史』研究成果報告書 第一冊 ISSN：2436-8229〕　2021 年刊行

⑵　毛利英介・森部豊・武田和哉・小國結菜編 毛利英介・森部豊・武田和哉・齊藤茂雄・藤原崇人・赤木崇敏・岡本優紀・小川伸・佐藤ももこ・山根弓果・武内康則執筆『『遼史』訳注稿 2 ―「太宗本紀」―』〔『遼史』研究成果報告書 第二冊 ISSN：2436-8229〕　2022 年刊行

⑶　佐藤直子編 佐藤直子・鬼頭清明 執筆 武田和哉監修　『長岡京関係史料集成（稿）』　2022 年刊行

⑷　武田和哉編 武田和哉・高橋学而・正司哲朗 執筆　『5～13 世紀ユーラシア東方における都城と仏塔の比較史的研究と 3D アーカイブ作成　研究成果報告書』　2022 年刊行

以上

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 正司 哲朗 , エンフトル A., イシツェレン L.	４．巻 47
２．論文標題 契丹(遼)時代の土城「バルスホト1」に隣接する仏塔の修築前後の構造比較	５．発行年 2019年
３．雑誌名 奈良大学紀要	６．最初と最後の頁 147-158
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　1件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 武田和哉
２．発表標題 契丹国（遼朝）的成立及其歴史意義
３．学会等名 第十届“蒙古、貝加爾西伯利亜与中国北方古代文化”国際学術研討会 於：中国北京市・中国人民大学（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 武田和哉
２．発表標題 ユーラシア東方世界の分裂と相対化の歴史的経過に関する一考察　―10～13世紀を中心として―
３．学会等名 総合歴史教育研究会2019年度例会 於：京都市・京都学園高校（招待講演）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	吉川　真司 (YOSHIKAWA Shinji) (00212308)	京都大学・文学研究科・教授 (14301)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	正司　哲朗 (SHOJI Tetsuo) (20423048)	奈良大学・社会学部・教授 (34603)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関